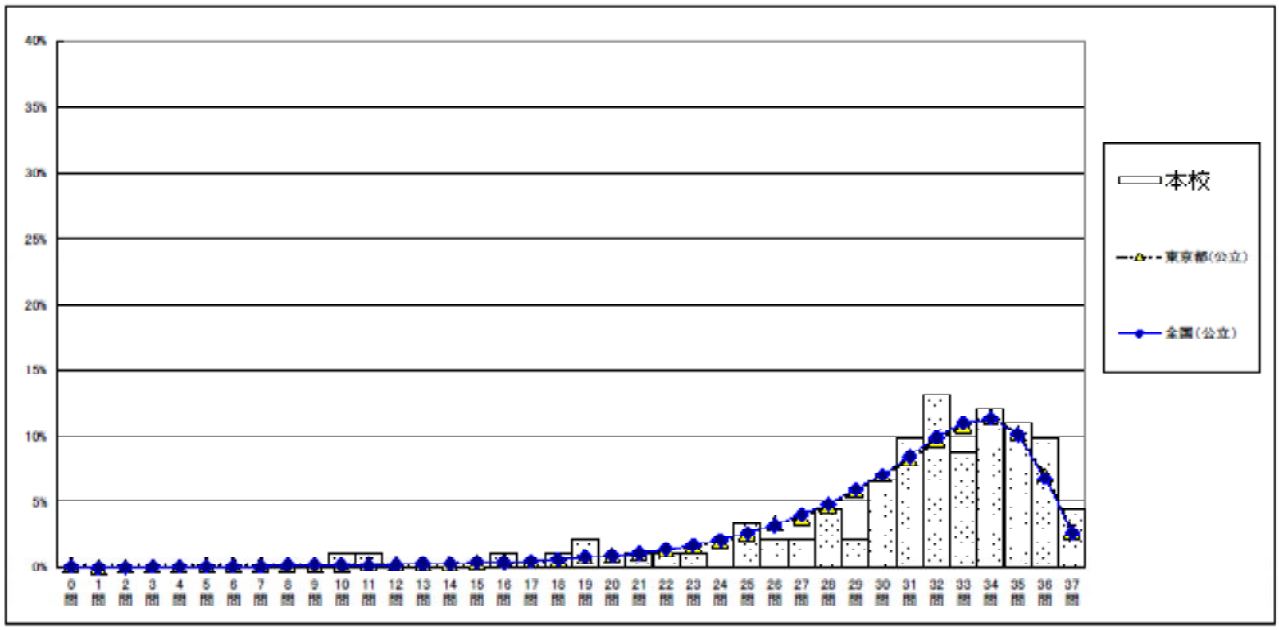
平成19年度全国学力･学習状況調査結果（　小松川第二中学校　）

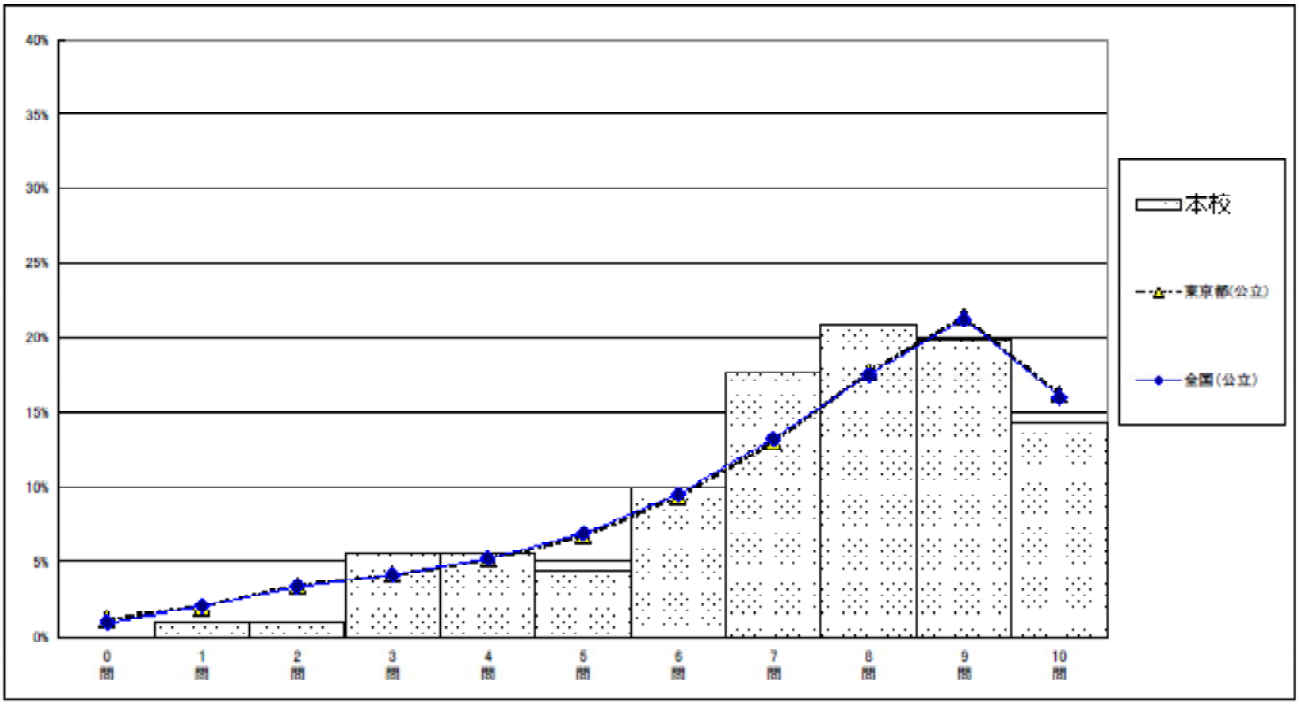
国語Ａ：主として知識

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



国語Ｂ：主として活用

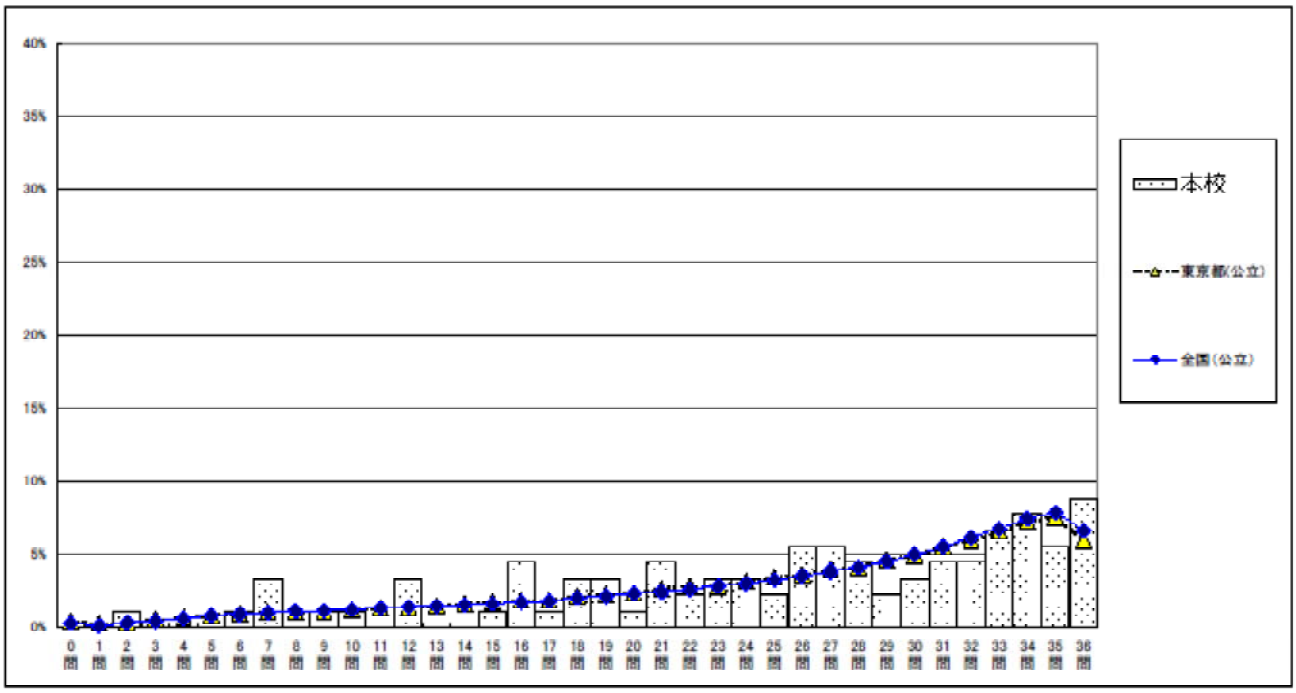
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



平成19年度全国学力･学習状況調査結果（　小松川第二中学校　）

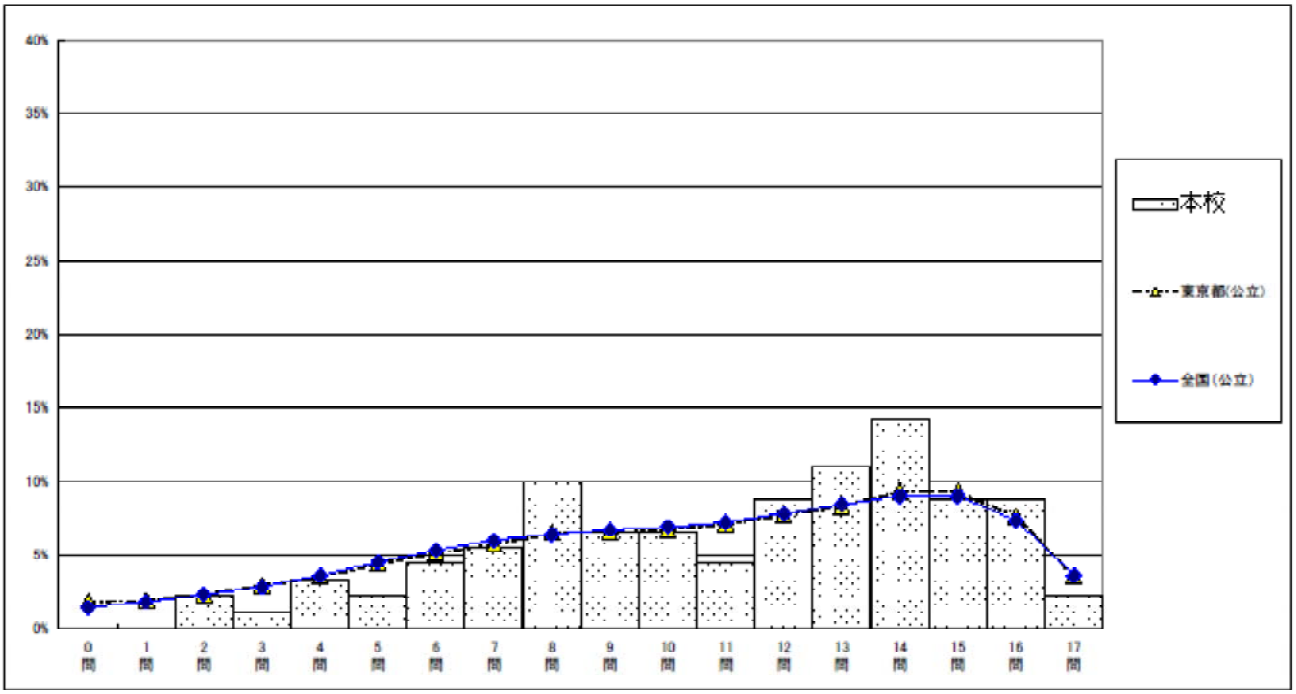
数学Ａ：主として知識

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



数学Ｂ：主として活用

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



本校の課題及び今後の指導改善のポイント

国語Ａ：主として知識について

○全体の傾向
　正答率は全国、東京都をやや上回っており、課題、指導改善のポイントは江戸川区全体と同様である。落ち着いた学習環境で授業に真剣に取り組む本校生徒の学習姿勢を今後も継続させる。

○正答率が低かった問題
　「書くこと」に関する【手紙の後付けの適切な書き方を選択する】の問題で正答率が低かった。
　この原因は縦書きの手紙文に日常接する機会が少ないことが考えられる。学校で行事などの際に書かせるお礼状なども「横書き」の場合が多い。日本語の伝統的な書き方である縦書きの基本についても指導し、活用を通して身につけさせる。

　「読むこと」に関する、【歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題】では『かをる』の正答率は高かったにもかかわらず、『ふるふ』については誤答が多かった。
　「言語事項」に関する【文字を読みやすくするための改善点を選択する】問題では、解答方式が選択肢であるにもかかわらず、誤答が多かった。
　基本的な事項の理解はできていると思われるが、文章全体の中で判断して応用することや、選択肢を比較検討してじっくりと考えることに課題がある。このことをふまえ基礎・基本の学習の次のステップの指導方法に工夫改善をする。

○無解答率が 10 %を超えた問題
「言語事項」に 関する、漢字の書き取り『リエキ』『ハンゲン』、漢字の読み取り『繁茂』について 10 %を超える無解答があった。記述式の問題については比較的よく解答していた。
　漢字の読み書きについては毎時間の国語の授業はもちろんのこと、朝学習や家庭学習課題としてなどあらゆる機会を通じて学習し、定着を図る工夫をする。

国語Ｂ：主として活用

○全体の傾向
　正答率は全国、東京都とほぼ同様である。東京都全体で無解答率が 10 %を超えた各設問においても、本校の無解答率は低かった。

○正答率が高かった問題
　解答が記述式の問題３問のうち２問【情報を基に、根拠を明らかにしながら、自分の考えが相手に伝わるように書く】【作品の内容や構成、表現上の特色をふまえ、自分の考えを書く】について無解答率が低く、正答率が高かった。

○正答率が低かった問題
　解答が記述式の問題３問のうち１問【資料に表れているものの見方や考え方をとらえ、伝えたい事柄や考えを明確にして書く】については無解答率は低かったが正答率も低かった。
　「読むこと」について【中学生が作成した広告カードに共通して書かれている情報を二つ書く】問題については、一つめの情報は読み取れたが、二つめの情報を読み取ることが

できない誤答が多かった。
　文章テキスト以外の資料から情報を読み取るといった学習になれていないことが考えられる。社会生活に必要な読む能力を文章以外の情報から的確に読み取ったり、活用したりする言語活動を積極的に行い、情報活用能力を高める。

数学Ａ：主として知識について

○全体の傾向
　正答率は全国、東京都をわずかに下回っており、課題、指導改善のポイントは江戸川区全体と同様である。領域別には図形に関して課題がある。落ち着いた学習環境で授業に真剣に取り組む本校生徒の学習姿勢を今後も継続させる。

○無解答率が 10 %を超えた問題
　数と式で【文字式の等式を目的にあわせて変形する】問題で無解答または問題の意味を理解していない解答が多かった。

○正答率が低かった問題
　図形の知識・理解で
【平行四辺形の条件】を選択肢から選ぶ問題で、二つある記号の意味をどちらか一つしか答えない誤答が多かった。
【直方体】の問題で「面」と「辺」「ねじれの位置」の 理解が不十分であると思われる誤答が多かった。
　数量関係の知識・理解で
【反比例の関係を表すグラフの特徴を理解する】問題、【一次関数のグラフの傾きや切片の意味やグラフの特徴を理解する】問題の誤答が多かった。
　数学特有の用語や用法に関して基礎的な理解が不十分な生徒に対して、個別指導を行うなど、苦手意識をなくすための基礎・基本のより一層の徹底を図る。

数学Ｂ：主として活用

○全体の傾向
　正答率は全国、東京都を上回った。全１７問中無解答率 20 %前後のものが 6 問（うち記述式の問題形式 4 問）あった。これらの問題の無解答率は東京都・全国も同様で本校よりもさらに高い数値を示している。

○正答率が低かった問題
　数量の数学的な表現・処理の選択式の【情報を分類整理し適切に選択し、判断する】問題「レストランのセットメニューで、条件を満たすメニューを選択する」では東京都・全国と比較して誤答が多かった。
　【ものごとを発展的に考えることができる】ことを確認する「連続する５つの自然数の和が５の倍数となることを説明する」問題、【グラフ上の点の並び方を理想化、単純化してとらえることができる】ことを確認する「時間と水温の関係が一次関数であることがわかるグラフの特徴を説明する」問題の正答率が低かった。
　日頃の授業を大切にした基礎・基本の上に立って、数学的なものの考え方や見方などを日常的な視点から捉え、わかりやすく説明するなどの活動の充実を図る。